



ユーモア6

榎本栄次

ユーモアには意外性が欠かせない。それが大きければ大きい程おもしろい。聖書の中にはそれがいっぱいある。

たとえば「ぶどう園の労働者のたとえ」(マタイによる福音書 20:1-16)である。天の国のたとえとしてイエスが弟子たちに話された。

ある人がブドウ園を持っていて、労働者を雇いに出かけた。夜明けに一日一デナリオンの賃金の約束で労働者を雇った。その後、9時と昼頃さらに午後3時ごろにも雇った。夕方の5時ごろにも行くと、何もしないで立っている人がいるので、「ぶどう園で働きなさい」と雇い入れた。

夕方の6時になると、主人は5時から来た人から始めて賃金の1デナリオンを払った。朝早くから来て働いた人はもっとたくさんもらえると期待したが、同じ1デナリオンだったので文句を言い始めたという話である。

朝早くから働いている者と、つい今しがた来てろくに働きもしない者と同じ扱いをされてはたまらない。いくら約束通りだとはいえ、悪平等としか思えない。この話を理解しようとする、どこか無理が来る。

深い人間愛を説かれても、神の真理を説明されても納得がいかないのではなかろうか。みんなが怒り出すはずだ。ひょっとしたら、夕方5時に雇われた人も一緒になって抗議するかもしれない。

これを不当なこととして受け入れられないのは、神の深い愛を知らない心の狭い人だと説教を始めようか。神様はわたしたちとは違う世界にいるから・・・というように話を神秘化してしまうか。あるいはみんな平等にという道徳の話にしてしまおうか。

どのような高邁な註解書にも自分に関係がないところでは説得力がない。聖書にはこのように不条理とも思われる話がいっぱいある。「99匹を野原に置いて1匹を探しに行く羊飼いの話」(マタイ 18:12)とか、「5つのパンと2匹の魚で5000人を飽かせる話」(マタイ 14:13以下)などである。

それを合理化して説明したり、道徳の話にして閉じ込めたりしてはいけない。そこには神のユーモアがあり、聖書の本髄とも言える真理が隠されているのだから。

北海道にいたとき、作家の三浦綾子さんがよく声をかけてくださった。あるとき彼女は私に「あなたは神様に依怙鼻肩(えこひいき)されていますね。失敗する度に上がっていますもの」と言ってくれたことがある。依怙鼻肩とは不正入学やカンニングのようなものであるから、褒められたのかそうでないのかわからない。事実であった。そういえば、彼女はお亡くなりになる少し前、テレビで「わたしは神様に鼻肩されています」とおっしゃっていた。

私がキリスト者になっているのは、偉大な人に出会ったからでもなければ、特別な真理を掴んだというようなものではない。申し訳ないが、笑いが止まらない。わたしこそ5時から雇われた人だからなのだ。だから難しい話ではない。私が何かで頑張っているとしても、そんなことは誇るのではなく取るに足りないことである。むしろ励み足りなくて申し訳ないばかりである。

難しい話をする人は深い真理を捉えているからではなく、分かっていないから話をややこしくしているだけなのだ。正直に「わたしはよく分からないので難しくしか話せません」と言うべきだろう。その方が面白い。

◇おさそい◇

9月6日(木) 13:30~16:30

「聖書をいっしょに読みましょう」⑤

座長 榎本 栄次(関西セミナーハウス活動センター所長代行)

9月8日(土) 13:30~17:30

修学院フォーラム「いのち」②

「ゲノム編集とデザイナー・ベビー

—ヒトの遺伝子操作が現実—」

講師 中山 潤一(基礎生物学研究所クロマチン制御研究部門教授)

9月15日(土) 16:00~16日(日) 12:00

開発教育セミナー③

「ロヒンギャはなぜ難民になったのか?

~ビルマ(ミャンマー)の来し方行く末」

講師 宇田 有三(フォトジャーナリスト)

10月6日(土) 13:30~17:30

修学院フォーラム「社会」④<宗教と戦争を考える-6>

「宗教改革者の戦争観」

講師 村上 みか(同志社大学神学部教授)

✧ なんどきですか ✧

・「8月や6日、9日、15日」と言いますが、特に平和を祈るこの月です。2月12日の米朝首脳会談をきっかけに朝鮮半島に和解の動きが起きています。このために韓国の大統領は大きな役割を果たしています。日本もぜひこの動きを支え応援したいものです。それは軍備拡張ではなく、平和憲法を守ることでしょう。

・沖縄の翁長知事が逝去された。尊い働きをされた方であった。それに引き換え、広島、長崎の原爆記念式で核兵器禁止条約に一言も触れない安倍首相はどうなっているの。

関西セミナーハウス活動センターへの賛助・寄付金

2018.5.1-6.30 順不同・敬称略

田中 潤治、山岡 義生、柳井 繁彌、比嘉 美智子、春名 康範、橘 俊子、(医)わたなべクリニック、織田 雪江、真鍋 裕子、斉藤 洋子、藤倉 寿美子、殿村 元一、宇野 稔、佐々木 紘児、東 千代、喜多村 やよい、田辺 信子、佐藤 友紀、北風 照子、鳴海 信子、菅 恒敏、間瀬 啓允、大島 順子、佐野 千枝子、酒井 涼子、田沼 大典、中西 和樹、岡山 孝太郎、松田 光代、手銭 秀夫、多木 秀雄、陶村 世佳子、三矢 明、長塩 滋子、新宗連 橋本 浩志、上田 圭子、大谷 光真、高寺 幸子、松本 嘉一、川北 かおり、柳井 一朗、加山 敬介、小久保 正、坪野 えり子、黒井 久代、高畑 恵子、島田 恒、君村 千代子、河合 良子、佐々木 紘児、多田出 佳代子、廣瀬 芳之、姫野 真知夫、藤本 和子、南 和子、安野 優美、山本 良昭、米澤 敏子、高橋 望

ありがとうございました。

投稿 きらら俳句

- 洪水を岸で眺める鷺一羽 星児
- 海霧を幾たび見しや鯨小屋 海楽
- 夕月に祇園囃子の紐おどる 茶香
- 背を丸め幹に残りし蟬の殻 虚舟
- ボサノバのリズム気だるき夏の午 周豊
- 猛暑耐え生き物すべて押し黙り 小次郎
- 雲の嶺大きく星の空に立つ 岳
- 蛇崩れや優しき山と思いを 公女
- 夏の夕ほとぼり冷めぬビルの群れ 枯骨
- 梅雨の午後サマリヤ人に出会いたり 寿美子

関西セミナーハウスの四季だより

森の響き

関西セミナーハウス庭園担当 榎 廣光

早朝、関西セミナーハウスの街灯の下で何か動いている小さな生き物を見つけた。カブトムシだ。時には小型のクワガタもいる。子どもたちにとって至宝かもしれぬ。

7月の初旬の大雨のあとに関西地方の梅雨明け宣言。やっと雨から解放かと思いきや、今度は一気に猛暑。しかも連日に亘って38℃超の猛暑である。西日本の豪雨といい、地球温暖化の影響だろうか。

猛暑の中、セミナーハウスの敷地内の大木の木陰からは蟬の合唱の響きだ。アブラゼミかな。クマゼミかな。最近では蟬の分布も少し変化があるようだ。関西ではクマゼミが増え、関東ではアブラゼミが多いとか。クマゼミは本来南方系だそうだ。これも温暖化の所為だろうか。

自然豊かなこの関西セミナーハウス界隈からは、昆虫や小動物たちの小さな命の営みの響きが聴こえてくる。この豊かな緑と自然を人間の都合で無為に壊してはならない。いつまでも護り続けたい。この豊かな自然を。